

(様式)

令和3年3月3日

狭山市教育委員会
教育長 向野 康雄 様

狭山市立狭山台小学校
校長 中島 敏也

令和2年度 狭山市立狭山台小学校 学校関係者評価表

※学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※【評価の目安】

【評価の目安】 A :よくできている (90%以上) B:概ねできている (75%以上)
C:あまりできていない (60%以上) D:できていない (60%未満)

目標領域	番号	評価項目	評価	自己評価 改善策(説明)	学校関係者(学校運営評議会委員)から
かしこい子	1	児童は、相手に届く声で話したり音読したりしている。	C	・文字を丁寧に書くことについて粘り強く繰り返し指導していく。	1 声についてはコロナ禍という状況であることから、子ども達も大きな声を出しにくい可能性もある。 1 挨拶の声は子供たちよりも教職員が厳しく評価をしていることが考えられる。 1 狭山台小学校は全体的に良い雰囲気づくりができています。校内外問わず、明るく素直な児童が多い。
	2	児童は、文字を丁寧に書いている。(下敷き・消しゴムを上手に使う)	C	・学習内容の定着が課題である。家庭学習の習慣化と共に、今年度より行っている自主学習ノートの取組を発展・深化させていく。	2 乱雑な字により、自分でも何を書いたかわからない場合もあるので、改善策のとおり根気よく指導をお願いしたい。 3~5 先生方の取り組みが評価が高いため、継続して指導をお願いしたい。 3 自主学習の取組の成果が上がっていることは良い。
	3	児童は、進んで家庭での学習に取り組んでいる。(塾等での学習を含めて〔10×学年〕分)	B	・狭山市学力向上茶レンジプランに基づいた「まとめ・ふりかえり」までを入れた授業についてはまだ不十分であるため、授業力向上を今後も目指していく。	3 家庭学習の取組は小学校時代に身につけることが大切。自主学習ノートの取組は台中でも行われているので今後も継続してほしい。 3 子供たちへの熱意を感じる。自主学習ノートの取組等の環境作りを大いに感じている。
	4	学校(教員)は、わかりやすい授業に努めている。(めあての明示、児童が自分の言葉でまとめる授業の展開)	A	・SSVCの活動は休止中であるが、児童と接触のないSUP「ステップアッププログラム」を4・5年生に本格導入した。	3 コロナ禍の中でSUPとしてSSVCの支援を入れていることに感謝する。 3 この状況下で、家庭学習も含めて、勉強に集中するようにできたことは長期の学校閉鎖も挽回できたことと考える。
	5	学校は、学習内容が子供に身に付くように努めている。	B		4 リモート授業の導入により、児童自身に日常感を盛り戻させることが重要である。
やさしい子	6	児童は、自分から目を見て挨拶している。	C		6 挨拶は達成しにくいですが、教師がチームワークを高めながら取り組んでいることを評価する。 6 挨拶については、マスクが原因となっていることも考えられる。
	7	児童は、相手を思いやるやさしい言葉づかいをしている。	B	・飛沫が飛ばないようにマスクごしの挨拶となっているが、適切な音量で目を見て進んで挨拶ができるよう全職員での指導を継続中である。	6 10月に防災授業で4年生と触れ合う機会があったが、挨拶もしっかりしており、話も熱心に聞くことができ感心させられた。 9 「学校が楽しくない。」と答えた児童がいた場合、内容を精査しそのわずかな兆候を見逃さず、組織で解決に取り組んでほしい。
	8	児童は、集団のために活動している。(係活動、当番活動、清掃など)	B	・言葉づかいの指導と合わせて人権教育を進めた。いじめ等の防止のために日頃から児童の様子に注意を払うとともに、年3回のアンケート調査を実施した。	10 いじめの件は難しい問題であるが、ふざけているなどいじめている認識がなくても、被害を受けている側の子はいやな気持ちになっているかもしれない。教室の中だけでなく通学途中でもあり得ることなので、引き続き注意を払ってほしい。
	9	児童が学校は楽しいと思っている。		・全教職員で子供たちの頑張った姿を見取り、認めていくことを通して、子供たちの自己有用感を高めていく。また子供同士が認め合い、高め合える授業を展開することで温かなクラス・学年・学校を創っていきけるようにする。	12 学校が色々と感染対策に尽力することで、逆に不安に思うこともあるため、ある程度はしかたのないことだと思います。 12 感染予防という新たな課題に対し、全先生方の努力があって子供たち・保護者が安心して任せることができている。
	10	児童にいじめを許さない心を育てるとともにいじめの早期発見・早期対応に努める。	A	・「安心して過ごせる学級」について児童の項目がC評価となった。全教職員で課題意識を高めてQ-U調査の結果の活用及び、困り感を持っている児童との面談等を行い、組織で早急に解決できるようにする。	12 安心して過ごせる学級について、Q-U調査の結果活用及び、困り感を持っている児童との面談等を行い、組織で早急に解決できるようにしてほしい。
	11	内面を高めていく道徳授業の展開。道徳的実践力を高める指導。	A		12 コロナ禍の中、子供たちはいろいろな不安に思うことが多かったと思うので、先生方や保護者が一緒になって子供たちの様子を見守ってほしい。
	12	学校は、児童が安心して過ごせる環境を作っている。	B		12 子供たちは大人が狼狽する様子を感じとっているため、防疫を日常化しつつ、団体行動の大切さとコミュニケーションの尊さを理解してもらうためにも、保護者や地域と一体となって取り組む姿勢が重要である。 12 子供たちが安心して過ごせる学校が一番大切です。子供たちの困り感に寄り添ってご指導をお願いします。

たくましい子	13	児童は、何事にもあきらめずに最後まで取り組んでいる。	B	<p>・コロナ禍において体力の低下が課題となっている。2回目の緊急事態宣言で下校後の体力向上はなかなか取り組めないため、学校生活の中でできるだけ休み時間に体を動かすことができるようにするとともに、家庭の中でもできる運動等について情報提供を行っていく。</p> <p>・毎月安全点検を行いその都度対処している。引き続き施設管理、安全指導に努め、校内の学習環境を整えていく。交通安全に関しては、意識が高まってきているので、引き続き繰り返し指導していく。</p>	<p>14 2学期は子供たちが公園で楽しそうに遊んでいるときに、外のためマスクをしないでいる子もいた。</p> <p>14 下校後は、なかなか外で遊ぶことも難しい状況なため、休み時間中に外で体を動かすように促すことは良いことだと思います。</p> <p>15 子供たちの中には、家庭で食事をとることも難しい環境の子もいる。「かさこじぞう」プロジェクトで支援を行っているが申請者が増えている。状況に応じて声をかけてほしい。地域で支えていくことが大切である。</p> <p>16 交通安全については、「(車は来ない)だろう」という意識が交通事故につながると思うので、「(車が来る)かもしれない」など、安全確認を怠らないような指導をお願いできればと思います。</p>
	14	児童は、進んで運動に取り組んでいる。	A		
	15	児童は、早寝・早起きを朝ごはんを食べて登校している。	B		
	16	児童は、交通ルールを守り、安全な歩行・自転車乗車をしている。	B		
	17	学校は、体力を向上させるための指導や環境づくりに取り組んでいる。	B		
	18	学校は、児童の安全確保に努めている。(安全指導、清掃、修繕等)	A		
公開・連携	19	学校は、学校公開、授業参観・懇談会、学校だよりや学年だよりなどで学校や教育活動の様子がわかるようにしている。	A	<p>・11月の「狭山台小まつり」のみ公開を行ったが、それ以外の学校公開、授業参観、学年活動は実施できなかった。開校10周年を祝う会のDVDを配布。また学校のHPを大幅リニューアルを行った。</p> <p>・1学期の緊急事態宣言中の家庭訪問、2学期の個人面談、日々の電話連絡等を行い家庭との連携を深めた。保護者による相談しやすい環境の項目が向上した。</p> <p>・会計は毎年度、管理職のチェックと、PTA本部役員に監査を依頼している。</p>	<p>19 コロナ禍において大変な状況にある中、「台小だより」で様々な情報を発信し、学校運営協議会が開催されるなど、学校運営が全般的にわたりきめ細かく行われていると感じる。</p> <p>19 台小まつりでの学年縦割りの小集団活動は、勉学では補えない貴重な時間であると考えられる。</p> <p>19 台小まつりは、企画・運営が子供中心でうまくいっていた。</p> <p>19 開校10周年を祝う会では、校歌の作詞をされた宮越先生のお祝いの言葉が素晴らしく、思いのすライドや合奏も大変素晴らしいものでした。教職員の努力の賜物だと思います。</p> <p>19 11月の「狭山台小まつり」は、コロナ禍という状況の中、大変なご苦労があったかと思いますが、本当に感動し、こういう状況下だからこそ工夫と連帯感みたいなものを感じました。</p> <p>19 タイムリーな情報公開のためにも紙ベースからIT活用へのシフトを望みます。</p> <p>20 休校中の家庭訪問や電話連絡等上手に活用できていた。</p> <p>21 この状況下で10周年記念行事、台小まつり、運動会とすべて開催できたことは保護者の方々との連携が順調であるからです。</p> <p>21 何かの機会、教職員へ地域住民からの感謝の意を伝えてほしい。</p> <p>21 コロナ禍の中、社会福祉協議会で作ったマスクを寄付することができ、子供たちに活用してもらうことができた。</p> <p>21 懇談会の保育での子供たちが嬉しそうに遊んでくれる姿から、次年度はなんとか放課後クラブを開催したいと思う。</p> <p>21 地域の行事がすべて中止となり、子供たちとの交流ができず残念であった。</p> <p>21 外部の人材・資源(民間問わず)も積極的に活用しての活性化も方法の一つである。</p> <p>22 監査をPTAIに依頼していることは素晴らしい発想である。</p>
	20	学校は、保護者が教員に相談しやすい環境をつくっている。	A		
	21	学校は、保護者や地域との連携に努めている。	A		
教職員	22	学校は、学年・行事等の会計を適切に処理し報告している。	A	<p>23・24 校長を中心に温かな教職員集団が作られている。誰にでもいつでも学校に来てもらい、教師も子供も育ててもらうという寛容心が大事である。</p> <p>24 11月の「狭山台小まつり」を拝見しても、先生方のまとまりがなくてはできないことだと感じています。</p> <p>24 子供たちが楽しく学校生活を送ることができるのは、教職員が子供たちのため様々なことに取り組んでいるからだと思う。</p> <p>24 何事も体が資本のため、業務を効率化し疲れを残すことのないよう、そして児童に悟られないように職場環境の改善と、教職員各々の健康管理の強化を望みます。</p> <p>25 英語、プログラミング、GIGAスクール構想の実施段階であるが、支援できそうなところは対応をしたいので、声をかけてほしい。</p> <p>25 今こそ子供たちに新しい授業方式の発想をしてもらうことが必要。「大人は教える人」「子供は教わる人」を打破し、今こそ子供の知恵を発揮する時だと考えます。目的を伝え、子供たちの意見を取り入れて更に充実していくこと。まずは遊びから。自分たちで考えた方法であれば、教育の効果も上がると察します。</p> <p>25 オンライン教育準備に乗り遅れないように体制を整えてほしい。</p>	<p>23 全教職員で学校経営方針に基づき組織的に教育活動を進めている。</p> <p>・コロナ禍においても全教職員で共通理解を図り、組織としてまとまった教育活動ができた。</p> <p>・教職員が常に高い意識をもって職務を遂行している。</p> <p>・新学習指導要領の完全実施に伴い、校内研修を充実させ、「主体的で対話的で深い学び」の在り方を授業の中に取り入れている。</p> <p>・職員の負担軽減の具体的方策を検討していく。</p>
	23	全教職員で学校経営方針に基づき組織的に教育活動を進めている。	A		
	24	教職員が組織の一員として自分のよさを発揮して勤務している。	A		
	25	教職員が積極的に研修に取り組むとともに、自己研鑽に努めている。	B		